

★健康相談★

きょう ていけん
◆龔廷賢◆

万病を回春させた明代の名医

太田順康

中国の明(1368~1644)の末期に南京のずっと南の江西省の金谿という町の高名な医家に生まれた龔廷賢(推定1539~1632)は、官吏の登用試験の科挙を受験しましたが失敗し、家業の医を継ぐことになりました。東京大学の受験に失敗して仕方なく家を継いだといったところでしょうか。

その後医術を磨くために、北京・南京などを歴訪して各地で名士を治療し、名声を博していきます。

中でも山東省の国主の妃が「腹部膨満の病」に苦しみ、藩内外の名医達に治療させましたが、全く効果が無く、途方に暮れていた所、龔廷賢の名声を知り、呼び寄せて治療を頼みました。彼の処方した薬方を服用した所たちまち快癒したそうです。どんな薬方を使ったかは伝わっていませんが、国主はお礼に「千金」を授けようとしたが回春したそうです。

そして当時の医療の最高機関である「大医院」の医官になり、多くの医書を残しました。

父親の龔信が著し廷賢が続編をカバーした「古今医鑑」をはじめ「寿世保元」「濟世全書」「万病回春」などの多くの著書があります。今でも私などは薬方を研究するときに参考にする本ばかりです。

中でも「凡そ疾はこれを療すれば沈病たちどころに起つこと、草木の春に逢うが如し」の意味で付けられた書名の「万病回春(万病が春に回り逢う)」は安土桃山時代から江戸時代初期に日本伝わった総合医学書で、江戸時代の初めの100年の日本の医療に多大の影響を与えました。彼の弟子で日本に渡り京都宇治の万福寺(精進料理で今も有名なお寺です)の臨元禪師の元で僧医になった戴墓公や当時の日本の名医だった、曲直瀬玄朔や岡本玄治などの力で爆発的に広まりました。

記載されている薬方は1,000方にも及び、従来の中国の医学書に比べて記述が簡潔で、治療に有益な内容に絞られている、また自分の体験を具体的に記述しています。

同書以前の薬方についてもその使用方法を明確にし新しい応用方も工夫しています。



在禪洞

すやか教室 山歩き

曜日と時間：毎週金曜日 10:30~

☆雨のときは、中止します。

☆お茶など飲み物を持参しましょう。

<12月の予定>

7日(金) 14日(金) 21日(金)

今年、最後の月となりました。例年より紅葉が早いかと思っていましたが、ここ松尾池はいま紅葉がきれいです。11月の後半は穏やかな暖かい天気が続いて、春と間違えた草花もあったようですが、岐阜名物の柿など美味しくなりました。カモやオシドリなど鳥たちも毎日に数を増しています。日本列島はあちらもこちら地震が続いていますが、師走の12月が無事穏やかでありますよう祈って元気に歩きましょう。

8 漢方相談日

担当：太田順康：日本漢方交流会認定漢方終身師範。
岐阜県漢方研究会会長。
岐阜薬科大学「漢方学」講師

今月の漢方相談日は、下記です。

3日(月) 17日(月) 27日(木)

8 12月の休診日

24日(月・振替休日)

8 年末年始の休診日

12月28日(金)~1月4日(金)

▼ 従って私なども薬方を選定するときの参考に本書を紐解きます、当然漢字ばかりですが眺めている内に、なんとなく判ってくるのが不思議で、魅力的な書物です。

今でも多く使われていますNo.57温清飲は同書に初めて載った薬方ですし、No.15黃連解毒湯、No.41補中益気湯なども記載されています。(つづく)